

農業委員さんおよび

農地利用最適化推進委員さんを募集します

日野町農業委員会の現農業委員および農地利用最適化推進委員の任期が令和2年7月19日で終わることから、新たな日野町農業委員会の委員（農業委員）および農地利用最適化推進委員の募集を行います。



対象・資格

農業委員

農業に関する識見があり、農地等の利用の最適化に関する事項その他の農業委員会の所掌に属する事項に関し、その職務を適切に行うことができる方。

農地利用最適化推進委員

農地等の利用の最適化の推進に熱意と識見があり、担当する区域において、その職務を適切に行うことができる方。

※両委員とも、次のいずれかに該当する方は除きます。

- (1) 破産手続開始の決定を受けて復権を得ていない方。
- (2) 禁固以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで、または、その執行を受けることがなくなるまでの方。
- (3) 日野町の職員（一般職）。

- (4) 町外に住まれている方で、町内で農業経営を行っていない方。
- (5) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員およびこれらと密接な関係がある方。

任期

3年

日野町農業委員会の委員

令和2年7月20日から

令和5年7月19日まで

日野町農地利用最適化推進委員

農業委員会が委嘱した日から

令和5年7月19日まで

募集人数

日野町農業委員会の委員 …… 15名

日野町農地利用最適化推進委員 …… 20名

申し込み

農林課、農業委員会事務局窓口にある所定の応募用紙に必要事項をご記入いただき、添付書類を備え、郵送または持参によりご提出ください。

※応募用紙は日野町ホームページからもダウンロードできます。

受付期間

2月17日（月）から

3月19日（木）まで【期限内必着】

そのほか 業務内容、推薦を受ける方および応募する者の資格等の詳しい内容については、日野町ホームページでの確認もしくは下記までお問い合わせください。

あなたは、サルへ無意識に「餌付け」をしていませんか？

日野町に生息するニホンザルの多くは、生まれた時から集落に依存する環境で暮らしているため、おいしい農作物の味を知っています。したがって、ニホンザルが集落へ頻繁にやってくるということは、それだけ栄養豊富でおいしいエサがたくさんある（簡単に手に入る）ということなのです。

集落内のエサを無くし、集落の工サ場としての価値を下げることで、ニホンザルの出没頻度が下がり、被害軽減に繋がります。

餌付けを防ぐ

集落にニホンザルがやってくる理由は、栄養豊富で美味しいエサがあるからです。

ニホンザルのエサには、①食べる人と人間に「怒られるエサ」と②食べても「怒られないエサ」の2種類があります。

食べても怒られないエサとは…

水稻収穫後の落穂やひこぼえ（2番穂）、収穫漏れの大豆、収穫後のイモのつる、放置された野菜くず・カキ・クリ等

多くの人は①に対しては被害を受けまいよう必死に対策を行います。②についてはエサになっていて、ことすら気づきません。

ニホンザルにとってエサの種類は関係ありません。虫に食われたキャベツや白菜の外葉も、人間にはゴミですが、サルには美味しく栄養豊富なエサです。

農作物を食害しているサルは、山野でのエサを中心とするサルに比べるると産数の増加率が高く、サル対策を進める上では農作物を食べさせないことが重要です。



水稻の落穂に群がるニホンザル

対策

【果樹】

果樹がサルのエサにならないよう低く剪定し、手の届く範囲で果樹が収穫できるように仕立てましょう。特に、柿はサルの好物なので注意が

必要です。収穫しない（できない）場合は、思い切って伐採しましょう。

【野菜】

ネット柵、電気柵などでしっかりと菜園を囲み、侵入を防止します。ネットを掛ける場合には、上部も覆うようにし、ネットの足元は、捲られないようにしっかりと固定して、つる性の野菜は、柵の隙から離し、外に伸びないように注意しましょう。収穫残渣は、畑にすき込むか、埋めてください。できなければ家庭の可燃ごみとして処分しましょう。

【水稻・大豆】

水稻は収穫後、速やかにすき込みを行い、落穂を拾えないようにしましょう。専門家によると、水稻収穫後の落穂を丁寧に拾うと、1反当たり50〜60kgも拾えるとの調査結果もありま



大豆の収穫残渣

す。大豆も収穫後、速やかにすき込

みを行います。冬場エサの少ない時期に、大豆は貴重なタンパク源となります。

ニホンザル対策では、「ちよっとくらなら食べられても大丈夫」という考えは被害を助長します。集落がサルのエサ場にならないよう誘引物を無くす工夫をしましょう。

日野町有害鳥獣被害対策協議会では、集落内の誘引物等を確認する作業として集落環境点検や、出前講座を実施しています。ぜひご利用ください。

（参考）ニホンザルの繁殖

野生のサル

初産年齢：7～8歳程度
 出産間隔：2～3年
 赤ちゃんザルの死亡率：30-50%程度

農作物を食べるとよつになると栄養状態が良くなり、若いメスでも出産し、寿命も長くなります。

農作物を食害しているサル

初産年齢：4～5歳程度
 出産間隔：毎年出産
 赤ちゃんザルの死亡率：20%以下

高い個体数増加率

◆問い合わせ先 農林課内 日野町有害鳥獣被害対策協議会 ☎0748-52-6512